

自転車事故での教訓

男性

40代前半となり、職場の健康診断では太り気味（メタボ気味）と診断され、これに追い打ちをかけるように若い頃から苦しめられてきた腰痛も悪化してきたころのときでした。ある友人から「自転車に乗れば腰痛が治るよ」と自転車に乗ることを進められたのです。私は一念発起し家内に頼んで購入資金を出してもらい、近所の自転車屋さんからスポーツ系の自転車を購入したのです。私は子供の頃、初めて親から自転車を買ってもらった時と同じように、心ときめかせながらその日のうちからその自転車に乗り始めたのです。最初のうちは「きつい」と思う面もあったのですが、その反面「きつい」ところを乗り切った後や風を切る快感は何事にも代え難く1週間後には自転車に乗ることにすっかりはまってしまったのです。

そのうち腰痛も無くなって体重も減ってきたことから体調も良くなり、ますますエスカレートしてしまい、通勤で使用したり、土日には1日4時間から5時間、時には百キロ近くも走るようになったのです。そして、自転車に乗り始めてから約2年が経過した頃でした。その日は天気良かったため、いつもは自家用車で通う片道約15キロ先の仕事場に自転車で向かうことにしたのです。午前7時頃自宅を出発して2分位した十字路交差点で、この事故に遭遇したのでした。

私の進行する道路は幅4メートルの地元の人しか利用しない急な下り坂の道路であり、交差する道路も幅約3メートルの人と自転車だけでほとんど車は通行しない道路でした。

私はこの交差点は見通しが悪く、交差する道路の両方には一時停止の標識が設置されていることを知っていました。従って、まさか進入してくる自動車や自転車はないものと過信し、いつものように下り坂をブレーキもかけず、速度の乗った状態で通り過ぎようとしたのです。すると、十字路の左側道路から突然自転車に乗った女子高生が交差点内に進入してきたのです。交差する左側の道路にはコンクリート塀があり、女子高生が来た方から私側の道路は見通しがきかず、一時停止の標識があることも知っていたので、まさかそのまま直進してくるとは、全く予期していませんでした。双方の距離は既に数メートルでありブレーキをかける間も無く交差点内で衝突してしまったのです。私は前方に一回転し、アスファルトに全身を叩きつけられたのですが振り返るとその女子高生は後頭部を路面に大きく2回叩きつけられ白目をむいた状態で全身をけいれんさせていたのです。私はその状態を見て咄嗟に危険な状態であることを察知し、転倒している状態ですぐに119番通報したのです。その後女子高生に近寄り呼びかけると数分後には意識を取り戻し、到着した救急車で病院に搬送されたのです。私は軽い打撲と擦り傷だけだったので現場に残り到着した警察官に届け出をした後女子高生が運ばれた病院に向かったのです。病院に着くと既に両親が来ており、怪我は軽い脳挫傷で数日間入院すれば、その後は経過観察の通院で済むということで生命に関わる重傷で無いことが分かり、ある程度はホッとしたのです。

怪我も完治し、その後治療代や自転車等の賠償などの問題が生じたのは当然のことですが、幸いに私は他人に危害を与えた場合の損害賠償責任保険に、また、相手方は、お父さんが入っていた自動車の任意保険の特約に同様の保険があったので、双方円満に示談は成立したのです。

今回遭遇した自転車事故の自分なりの教訓として、

「自転車であっても人を死傷させる危険性のある乗り物であり、自動車と同様に道路交通法を守り、同様の注意をする。」「人を死傷させる乗り物であるから、事故に遭遇した場合の賠償等に対応する保険に加入しておく必要があり、入っていない場合は実費となる。」ということでした。今後は自転車であっても侮ることなく、道路交通法を守り、楽しい自転車ライフを送りたいと思っております。